

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	672300373
法人名	特定非営利活動法人 あじさい
事業所名	グループホーム あじさい
訪問調査日	平成 20 年 2 月 21 日
評価確定日	平成 20 年 4 月 1 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月26日

【評価実施概要】

事業所番号	672300373
法人名	特定非営利活動法人 あじさい
事業所名	グループホーム あじさい
所在地 (電話番号)	山形県西村山郡大江町大字本郷丁10-1 (電 話) 0237-83-4177

評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県山形市松波四丁目1番15号		
訪問調査日	平成20年2月21日	評価確定日	平成20年4月1日

【情報提供票より】(平成19年12月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 8 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	6 人

(2)建物概要

建物形態	併設／○単独	新築／改築
建物構造	木造平屋 造り	
	階建ての 階 ～ 階部分	

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	600 円	その他の経費(月額)	光熱水費400円/日、他実費
敷 金	有(円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食 220 円	昼食 320 円	
	夕食 260 円	おやつ 100 円	
	または1日当たり 880 円		

(4)利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名		
要介護3	名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 87.88 歳	最低 79 歳	最高 99 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	霞晴堂 白田病院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「残された能力を最大限に引き出し、その人らしく生きがいある生活」「利用者」と心通じ合う生活」を目指す介護に努めながら、町役場から委託を受けた介護予防のための「介護推進教室」にも取り組んでいるホームです。また、この一年間の職員交代が定年退職に伴う1名のみであることは、利用者が馴染みの関係の中で、落ち着いて暮らせることにもつながっているようです。「前回評価の改善課題」と「今回評価の改善課題」への取り組みも進めながら、今後さらにサービスの質の向上が期待されるホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	① 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 「緊急時の手当を看護師の資格を持つ特定の職員に頼るのではなく、すべての職員が緊急時の対応ができるように、具体的な取り組みを始めてみる」とについては、マニュアル本は準備されているが、近隣に消防署があるからという安心感のために、改善課題への具体的な取り組みは行われていない。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員が自己評価票に目を通しており、職員から出た意見を話し合って改善につなげている。また、外部評価を実施する意義も、ある程度理解されている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議では、グループホームの状況、外部評価、防災についてなどが話し合われているが、会議の開催は平成18年5月、18年9月、19年6月の3回にとどまり、定期的に開催されていない。 運営推進会議を定期的に開催し、そこで出された意見をホームの運営やサービスの向上に、より多く活かしていく取り組みが期待される。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 面会時や家族会を開催した際に意見や要望を聞くようにしており、利用者の体調管理や通院支援に反映させた点もある。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 隣組にも入っており、総会への出席、ゴミ拾いボランティアなどにより、地元の人との交流に努めている。また、地域の行事、お祭りがあれば、ホームに地域の人が立ち寄ってくれる関係もつくられている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「グループホームあじさい」の理念として、「利益を追求しない法人の特徴を最大限活用し、利用者側にたった良質なサービスを提供する。」「認知症高齢者の残された能力を最大限に生かし、その人らしい生きがいのある生活を提供する。」があるが、地域密着型サービスとしての理念となっていない。	○	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていく地域密着型サービスとしての理念も、運営理念に加えていく取り組みが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は見えるところに掲示されており、また、職員は毎日のケアや職員会議の話し合いでの振り返りを通して、意識の統一を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣組にも入っており、総会への出席、ゴミ拾いボランティアなどにより、地元の人との交流に努めている。また、地域の行事、お祭りがあれば、ホームに地域の人たちが立ち寄ってくれる関係もつくられている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が自己評価票に目を通しており、職員から出た意見を話し合って改善につなげている。また、外部評価を実施する意義も、ある程度理解されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、グループホームの状況、外部評価、防災についてなどが話し合われているが、会議の開催は平成18年5月、18年9月、19年6月の3回にとどまり、定期的には開催されていない。	○	運営推進会議を定期的に行い、そこで出された意見をホームの運営やサービスの向上に、より多く活かしていく取り組みが期待される。

山形県 グループホームあじさい

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の委託により「健康維持教室」をホームで担当しており、報告書を1ヶ月に1回役場へ提出しに行った時に、担当者とホームの状況などを話している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶり、健康状態、職員異動、金銭管理状況は、お便り、電話、面会時に家族に報告されている。また、毎日の介護記録を、毎月コピーして家族に送る取り組みも行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会を開催した際に、意見や要望を聞くようにしており、利用者の体調管理や通院支援に反映させた点もある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動は、事前に利用者に説明し理解を得るようにしており、精神的に落ち込みがないように、話しかけを多くしてダメージを防ぐよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画はないが「高齢者介護研修」「ケアリーダー研修」「カウンセリング研修」などの外部研修に参加している。また、「痰の吸引」や「食事、カロリーについて」などの職場内研修も行われ、職員の育成と利用者へのサービス向上につなげている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の交換研修や近隣の福祉施設への研修を行っており、音楽療法やハンドベルを取り入れながら、職員の意欲の向上と利用者の楽しさにつなげている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 利用本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の中で伝統食を学ぶ、漬物や味噌作りを一緒に行う、昔話をする、誕生会を開くなど、共に過ごし支えあう関係をつくっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の表情に注意を払うこと、話しに耳を傾けることに努め、一人ひとりの思いをくみ取るようにしており、以前住んでいた住宅への訪問や、お茶を点てるなどの希望に応えている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や本人の要望、職員の気付きや意見を組み入れた介護計画書になっており、実際の介護の中に反映されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員全員で検討、確認、見直しを定期的に行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	家族、本人の意向に合わせて、かかりつけ医を決める ことができ、協力医療機関からの往診も受けられてい る。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	状態の変化に応じた話し合いを家族や医師と行い、職 員全員で方針を共有するようしており、終末期のあり 方についての意向の把握や同意がなされている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをして いない	排泄や入浴への誘導の声かけは、プライバシーにも配 慮しながら耳元で行うようにしている。また、記録等は、 利用者の目に触れない場所で記入し、保管するように している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間に合わせた食事の提供や、買い物の希望に 添えるようしており、一人ひとりの利用者が、思い思 いに過ごせる支援に努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を利用者と共に考え、食材を切ってもらったり盛り付けや配膳を一緒に行っており、「ぼた餅」など季節ごとの料理や外食なども取り入れられている。また、昼食時には、顔を見ながら会話を楽しんで食事ができるよう、テーブルの配置の工夫も行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一番風呂、夕方や夜間の入浴など、入浴時間の希望に合わせた入浴の支援が行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理の得意な方には下ごしらえを手伝ってもらったり、ホームで飼っている「うさぎ」に餌をやってもらったりしている。また、カラオケや民謡ボランティアの来訪も、楽しみごとの一つになっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の商店への買い物、散歩、食堂での外食など、戸外に出かける機会を設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	玄関に鍵をかけておくことによって、さらに危険な所からも利用者が外に出ようとする場合があると認識しており、鍵をかけずに見守りによる支援が行われている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近所に消防署があること、また、地域の消防団員もホームに勤務しているという安心感から、災害対策についての体制整備が遅れがちであり、避難訓練等の計画作成はまだ行われておらず、避難訓練の実施も1回となっている。	○	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるように、災害対策についての具体的な取り組みや働きかけが期待される。

山形県 グループホームあじさい

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みに合わせて、代替食を用意したり、ゼリー状にして水分を摂りやすくする工夫がなされている。また、利用者の食事や水分の摂取量も記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が集まる食堂には、季節の飾り付けやコタツがあり、居心地よく過ごせるようにされている。また、所々にソファも置かれ、いつでも腰を下ろして休むことができるようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家族の写真、箆笥、仏壇などが持ち込まれており、居心地よく過ごせるようになっている。		